

「ショートステイでの作業療法士の役割」

～多職種連携を通じ感じたこと～

中川由子

医療法人社団 らぼーる新潟 ショートステイゆきよしとやの

共同演者 清水美穂 高野友美 荻荘則幸

医療法人社団 らぼーる新潟 ゆきよしクリニック

A 分類：生活期(維持期)リハ・ケア

B 分類：チームアプローチ

【初めに】当施設は平成 22 年 8 月に開設された、定員 32 名のショートステイである。平成 24 年 4 月より作業療法士(以下 OT)が週 5 回 3 時間介入し、身体機能の評価・リハビリメニューの立案を行い、看護師と協力し個別リハビリを実施してきた。今回、平成 24 年 4 月にショートステイを利用した全 68 名の利用目的を調査したところ、レスパイト 40 名、施設待機中 16 名、リハビリ希望 12 名だった。ショートステイでの取り組みを通じて OT の役割を考察する。

【事例紹介】74 歳、女性、脳梗塞(右片麻痺、失語症)、転倒予防のため、下肢筋力強化、歩行訓練を実施してきた。食事中に手づかみで食べたり、むせることが多いと看護師から報告があり OT が評価をした。誤嚥の危険性があると判断し食器の使用方法的説明や選定を行い、声掛けを行うよう看護師に申し送った。

67 歳、男性、脳梗塞、(四肢麻痺)、施設内で看護師の介助で移乗し転倒事故が生じたことをきっかけとし、移乗動作方法の統一を目的に OT が評価した。訪問リハ担当理学療法士、デイサービス看護師を含む症例検討会を開催した。

【考察】どちらの事例も多職種で関わったことで情報の共有、統一した関わりができ、より良い支援に繋がった。OT の役割として、多職種や家族と連携しながら専門的な視点から生活を支援していく必要性があると考えられる。